

式 辞

本日ここに、ご遺族の方々並びに、ご来賓多数のご参列を賜り、令和五年度松戸市戦没者追悼式を挙げるにあたり、市民を代表して、謹んで哀悼の意を捧げ式辞を申し上げます。

先の大戦において、祖国のため危地に赴き、酷寒炎暑の戦地で散華された戦没者の方々、度重なる空襲により尊い命を失われた戦災犠牲者の方々のご心情を思うとき、今なお悲痛の思いが胸にせまります。

終戦から七十八年の歳月が過ぎたとは申せ、諸霊の御前にありまして、追悼の思いは更に深まるものがございます。

また、最愛の肉親を亡くされたご遺族の皆様のご心中を拝察するとき、お慰めの言葉もございません。

ご遺族の皆様が、一家の支柱を失い、困苦と欠乏に耐えながら生き抜いてこられた並々ならぬご努力に対しまして、心から敬意と感謝を表する次第でございます。

諸霊が命をかけてお守りいただきました祖国は、国民のたゆまぬ努力により、平和国家として今日を迎え、また、ご遺族の皆様のご支援ご協力により、松戸市も人口四十九万余を数える全国有数の生活都市として発展して参りました。

時の流れとともに、戦争を知らない世代が増え、戦争の体験と記憶の風化が危惧される中、私たちは、この悲惨な戦争が実在したことを後世に伝えていかなければなりません。

本日の戦没者追悼式にあたり、未だ争いが絶えることのない世界にあって、私たちは松戸市の「世界平和都市宣言」の下、あらためて諸霊の残された尊い教訓をかみしめ、再び悲しみの歴史を繰り返さない決意をあらたにして、日本の繁栄と世界の恒久平和実現のために、心を合わせて努力して参ることを、お誓い申し上げます。

おわりに、いま一度、戦没者の御霊に永久の安らぎと、ご遺族の皆様には、ご多幸を心よりお祈りし、式辞といたします。

令和五年九月三十日

松戸市長 本郷谷 健次